令和2年度　県立太田第一高等学校自己評価表　[全日制課程]

目指す学校像	自主的精神に満ちた，心身共に健康で，社会や国家に貢献し得る有為な人材の育成に努める。		
昨年度の成果と課題	重　点　項　目	重　点　目　標	達成状況
●対話的で分かりやすい授業の実践により，学習内容の定着率を高めることができた。家庭学習が習慣化していない生徒もいるため，学習状況調査等，家庭学習時間の確保に向けた工夫を継続する必要がある。 ●進路実績は維持の状況である。実績向上に向けて，志を高く持ちながら進路実現に向けて努力するよう指導していく必要がある。 ●部活動加入率は88%と非常に高く，運動・文化部とも熱心に活動しているが，更なる活性化のため，生徒の主体的な活動を促す必要がある。 ●新学習指導要領に対する研究により理解を深めたが，附属中学校の開校に伴い，6年間の一貫教育を見据えたカリキュラムマネジメントを行う必要ある。また、指導力向上のため，地域の小中学校との相互研修を進める必要がある。 ●真面目で素直な生徒が多く，学校は全般的に落ち着いている。一部生徒にスマホのマナー違反や過度の使用，歩きスマホ等の問題があったため，指導に継続的に取り組む必要がある。学校教育全体を通して規範意識を高め，人間性豊かな生徒を育成していきたい。 ●学校訪問を通して教育活動の宣伝に努めたが，生徒の確保に結び付いていない面もあることから，本校の特徴と魅力を効果的に伝える広報体制を構築する必要がある。	1　心の教育の充実・豊かな人間性の涵養	自他の生命を尊重し，他人を思いやる心を育て，豊かな人間性を培う。	B
	2　単位制の特色を生かした学力アップ	単位制高等学校(進学重視型)としての特色を生かした学習内容を工夫し，学習指導の充実を図ることで学力の向上に努める。	B
	3　家庭学習の定着と学習時間の確保を目指した指導	生徒の主体的な学習意欲を喚起し，家庭学習時間の確保を図る。	B
	4　目的意識の深化等個々の生徒に応じたきめ細かな指導	生徒の興味・関心・適性に応じた進路指導の充実を図り，生徒の進路希望の実現に努める。	B
	5　互見授業の積極的な実施と指導力の向上，主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善の推進	新学習指導要領を踏まえた教科指導の内容・方法等の研修に積極的に取り組み，指導力の向上に努める。	B
	6　積極的な生徒理解，家庭との連携，基本的生活習慣の確立	生徒理解をとおして，生徒の個性の伸長を図りながら，高校生らしい服装・態度を身につけさせ，望ましい生活習慣の確立に努める。	A
	7　特別教育活動と学社連携の充実	生徒会活動・ＨＲ活動・部活動の活性化に努め，地域との連携をはかりながら体験的活動を展開し，開かれた学校づくりに努める。	B
	8　情報の共有と臨機応変な判断，充実した学校生活への環境整備	危機管理を徹底し，校内外での事故防止と健康・安全で安心な学校づくりに努める。	B
	9　英語力の育成と国際理解教育の推進	国際理解を深め，グローバルな視点と国際感覚の育成に努める。	B
	10　幅広い情報発信と学校公開の機会拡充による生徒の確保	教育活動の広報体制を一層充実させるとともに，生徒の確保に努める。	B
	11　校種を越えた相互授業研修	地域の学校との連携を深め，多様な指導法の共有を図る。	C
	12　働き方改革への積極的な取り組み	生徒一人一人に寄り添う指導の実現に向けて，業務の効率化を進め，超過勤務時間の縮減を図る。	B

評価項目		具体的目標	具体的方策	評価		次年度(学期)への主な課題
教科指導		1　学習指導の技術を向上させ，主体的・対話的で深い学びを実現するとともに確かな学力の定着を図る。 2　自主的・自律的な生活態度を育成し学習習慣の確立を図る。	(1)学習意欲を喚起し，対話的で分かりやすい授業の実践に努める。	C	B	・対話的な授業の実践。
			(2)自己管理力を高め家庭での学習時間を確保させ，基礎学力の向上・定着を図る。	B		・家庭学習課題を生徒の学力に合わせて最適化する。
			(3)生徒理解のための学習状況調査を実施し，課題を分析検討して具体的対策を講じていく。	B		
教科	国語	1　主体的に読み，それをもとに表現する力の育成を図る。	(1)小テスト等を利用して基礎的な言語事項や文法・句法の理解度を把握し，習熟度に沿った対応を心がける。	B	B	・ICT化への適切かつ効果的な対応方法の研究。
			(2)学習意欲を喚起し，対話的で分かりやすい授業の実践に努め，学習内容の定着に努める。	B		
		2　家庭学習の習慣化に努める。	(3)自己管理力を高めるため家庭学習教材等を準備するなどし，家庭学習の習慣をつけさせる。	B		
		3　読解力・表現力向上を目指し，授業の改善に努める。	(4)全員が授業公開し，新学習指導要領を踏まえた指導力の向上，主体的・対話的で深い学びの視点から，授業内容・方法等について研究と修養をする。	B		
			(5)各種研修会に積極的に参加し，教科会で発表するとともに自己研鑽に努める。	B		
	地歴・公民	1　基礎学力の向上を図る。	(1)単元ごとに小テスト等を実施し，学習の理解を高める。	B	B	・ICTを活用した指導方法の工夫。
		2　地歴に興味関心を持たせ，国際化に対応できるような地歴の授業の展開に努める。	(2)授業の多様な切り口の導入やＤＶＤ・ビデオ等の視聴覚教材の使用により，世界や日本の地理，歴史を多面的に学ばせる。	B		・観点別評価を踏まえた評価方法の工夫。
		3　社会，政治への興味関心を喚起できるような公民の授業展開に努める。	(3)新聞，ＴＶの報道番組等の具体的内容を紹介，授業への導入を通し，生徒達に社会事象への関心を持たせる。	B		・「主体的・対話的で深い学び」を実践するための授業展開の工夫。

評価項目		具体的目標	具体的方策	評価		次年度(学期)への主な課題
教科	数学	1 基礎学力の向上を図る。	(1)小テスト等を利用して学習の理解度を把握し，不十分な生徒へは補習を実施する。	B	B	・低学力者のフォローの徹底。 ・継続して自己研鑽に努める。
			(2)少人数指導によるきめ細かな指導を行い，その成果と課題を明確し，次年度への改善策を検討する。	A		
			(3)学習内容の定着のため，放課後質問の時間を設ける。	B		
		2 家庭学習習慣の定着に努める。	(4)課題のノートを定期的に点検し，家庭学習の習慣を付ける。	A		
		3 数学がわかる喜びを実感する授業への改善に努める。	(5)担当者全員が学期に１回授業を公開し，授業内容，方法等について教科内で研究協議する。	B		
			(6)各研修会に積極的に参加し，自己研鑽に努める。	C		
	理科	1 学習の充実を図り確かな学力の定着を図る。	(1)学習意欲を喚起するような対話的な授業の実践に努め，生徒一人一人に寄り添う指導を行う。	B	A	・コロナ禍における対話的授業や実験・観察実施の工夫。
			(2)自然の事物・現象に対する関心や探究心を高め，主体的に学ぶ態度を育成するよう，実験・観察を行う。	B		
		2 学習習慣の確立を図る。	(3)生徒の実態に応じた課題を設定し，家庭学習の習慣をつけさせる。	A		
		3 新しい教育課程に基づいた授業の改善に努める。	(4)年間を通し，科目を超えて授業を公開しあい，授業内容，方法等について研究協議する。	A		
	保体	1 運動技能を高め，規律ある行動や態度を育成し，基本的生活習慣の確立を目指す。	(1)整列，挨拶，時間，服装等を守らせたうえで，体力の向上ならびに，各種の運動技能を高めさせる。	A	B	・コロナ対策をした上で授業を展開することができた。 ・生徒の主体的・基本的感染予防の定着。 ・マスクをはずす時間帯が生じるため県の指示に従い感染予防策を講じていきたい。 ・付属中体育との連携。
		2 保健の知識を身に付けさせ，生活に生かせるようにする。	(2)健康・安全について理解させ，生涯を通じて健康を管理・改善できるようにさせる。	B		
	芸術	1 表現力の向上を図る。	(1)個別指導を丹念に行い，表現力の基礎を向上させる。	A	B	・コロナ禍における共用楽器・道具類の管理と使用の工夫。 ・ICT教育にも対応できる授業内容の研究。
			(2)さまざまな作例を取り上げ，幅広い表現活動を促す。	B		
		2 鑑賞の基礎的能力を深める。	(1)生徒の素直な見方を尊重しつつ，制作意図や表現の工夫点にも気づかせる。	B		
			(2)お互いの作品を鑑賞するとともに，さまざまな展覧会の鑑賞も促す。	B		
		3 主体的・対話的な授業への取り組みに努める。	(1)生徒が興味を持つような題材を設定して，意欲を持って制作活動ができるようにする。	B		
			(2)自分の表現のテーマ（主題）を明確化させていき，それにふさわしい表現を工夫させる。	B		
			(3)作品は必ず完成させ，制作の達成感を味わわせる。	A		
	英語	1 基礎学力の向上に努める。	(1)到達目標を意識した指導を行い，内容の定着および応用力の育成を図り，評価を行う。	B	B	・タブレットを活用した指導法の研究を行う必要がある。
			(2)少人数指導によるきめ細かな指導を行い，その成果と課題をふまえ，指導方法の改善策を検討する。	B		
			(3)小テスト等を通して学習の理解度を把握し，不十分な生徒へは追試験を行ったり補習を実施する。	B		
		2 家庭での学習習慣の定着に努める。	(1)課題やノートを定期的に点検し，家庭学習の習慣をつける。	B		
		3 生徒の総合的な英語の能力を伸ばす授業の改善に努める。	(1)個々の生徒の積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を養うために，ＡＬＴとのティームティーチング授業を効果的に展開する。	A		
			(2)必要に応じてICT機器を活用し，「読む，書く，話す，聞く」の４技能をバランスよく育成する。	C		
			(3)各種研修会に積極的に参加するなど，自己研鑽に努める。	D		
			(4)パフォーマンステストを効果的に行い，その評価方法について考える。	C		
			(5)ディベート的要素を取り入れた言語活動を行い，論理的的思考力や批判的思考力の育成を図る。	C		
			(6)英語外部検定試験を含めた大学の新入試制度への対応を進める。	B		
	家庭	1 家庭に関する知識や技術が身につくよう努める。	(1)実験・実習の形態を工夫し,生活に必要な基礎的・基本的な知識や技術の習得を目指す。	A	B	・ICTを活用した授業の工夫。 ・観点別評価を取り入れた学習評価の改善。 ・コロナ禍での実験・実習の方法。
			(2)妊婦体験，乳幼児の世話，高齢者の疑似体験などの体験学習を多く取り入れ，学習内容の理解・関心が深まるよう努める。	B		
			(3)個に応じたきめ細かな指導を行い，さらなる学習意欲の向上をはかる。	A		

評価項目		具体的目標	具体的方策	評価		次年度(学期)への主な課題
	家庭	2 生活の課題を見出しこれを改善しようとする態度を育てる。	(4) 生活ハンドブックの利用で家庭に関する興味，関心を深めさせる。	A		
			(5)ホームプロジェクトを通して，身近な生活の中に課題をみつけ，主体的に解決する方法を考えさせる。	B		
		3 授業がわかる喜びを実感するよう改善に努める。	(6)各種研修会に積極的に参加し，自己研鑽に努める。	D		
	情報	情報がわかる喜びを実感する授業への改善に努める。	(1)担当者全員が学期に１回授業を公開し，授業内容，方法等について教科内で研究協議する。	B	B	・授業公開を複数回行う。 ・継続して自己研鑽に努める。
			(2)各研修会に積極的に参加し，自己研鑽に努める。	C		
教務		1 新学習指導要領を踏まえた特色ある教育課程の編成と運営を図る。	(1)生徒の多様な進路に応じた新しい教育課程の計画的な策定に努める。	A	B	・コロナ禍の中，様々な行事や取組が実施できなかったので，これをきっかけに見直すところは見直した方が良い。 ・新教育課程をきっかけとした各行事等の機能的な運営の調整。 ・教科教育の研究を望む。 ・出張が多すぎる。自習が多くなった。 ・学校行事や教育課程とグランドデザインとの整合を図ること。 ・定員割れの理由を教務としても考え，全てを管理職へ伝えることが大切である。
			(2)「道徳」についての研究を図る。	B		
			(3)「総合学習」についての研究を図る。	B		
		2 内規の見直しを図る。	(4)内規の見直しを図る。	C		
			(5)科目の評価方法等の研究を進める。	C		
		3 授業時間の確保に努める。	(6)出張・年休等における授業の確保に努める。	B		
			(7)学校行事等の能率的運営を図る。	B		
			(8)授業の終始時刻の厳守に努める。	A		
		4 学校支援システムの円滑な運用に努める。	(9)学校支援システムについての教職員の共通理解を図る。	A		
			(10)学校支援システムの出力帳票等についての改善を図る。	B		
		5 広報活動の充実を図る。	(11)学校公開の機会をこれまで以上に増やし，中学校・地域への広報活動に努める。	B		
			(12)情報部と連携しながら、インターネットを活用した情報発信に努める。	C		
			(13)学校案内の充実に努める。	B		
			(14)ポスター・「青龍だより写真版」・「青龍だより」を作成配布して広報に努める。	A		
			(15)単位制高校の特徴等を説明する。 ①新任者向けに年度始め説明会を実施し理解を図る ②中学校で実施する高校説明会の資料の改善に努める ③茨城県進学フェア等に参加し，幅広い広報活動に努める	B		
庶務		1 保護者・教師間の相互理解を深めPTA活動を実のあるものにする。	(1)内容の充実を図り，PTA総会・年次PTA・学年PTA・PTA支部懇談会の出席率向上を図る。	—	B	コロナ禍で，できなかった行事が多く，各項目の評価不能。一部の実行できた行事についての総合評価です。 ・新高校１年次のＰＴＡ評議員（広報・研修・生徒指導委員）の選出が，従来の３月末の合格者説明会で行えず，４月以降，各ＰＴＡ支部長による電話での個別依頼となり，煩雑であった。
			(2)PTA保護者研修会を充実させる。	—		
			(3)体育科と連携し校内マラソン大会への保護者の参加・協力を得る。特活部と連携し学校行事への保護者の参加・協力を得る。	—		
		2 PTA活動を通し生徒が充実した学校生活を送り自己の希望進路が実現できるよう援助する。	(4)PTA会報・PTA研修視察の一層の充実を図る。	—		
		3 PTA活動を通し生徒に生きる力・基本的生活習慣・思いやりの心・マナー等を身につけさせるよう努力する。	(5)生徒指導部と連携し，さわやかマナーアップ運動・列車添乗指導・夏祭り指導等を実施する。	—		
学習研究		1 学習指導の充実を図る。	(1)学習意欲を高める授業の研究・実践および課外授業の充実に努める。	B	B	・進路指導部，教務部，各年次との連携を密に取り，生徒の学力と第一志望進路実績の向上を図る。 ・新大学入試共通テストや新教育課程等の教育改革に伴う学校体制の取り組みを研究し，生徒のよりよい教育環境作りを目指す。
			(2)新学習指導要領や高大接続改革に向けた指導研究を進め，実践につなげる。	B		
		2 学習習慣の確立を図り学力の向上を目指す。	(3)スタディサプリ・Classiの積極的な活用を促すとともに，生徒の主体的な自学自習力を育成し，家庭学習時間の確保を図る。	B		
			(4)生徒理解のための学習状況調査を実施し，その分析検討及び対策を図る。	B		
			(5)生徒・保護者への適切な学習情報の提供を図る。	B		
		3 校内研修の充実に努め他の部・年次との連携を図る。	(6)研究協議や授業公開を通して主体的・対話的で深い学びの実現を目指し，教科指導改善に取り組む。	B		
			(7)年次，教科，進路指導部等の校内分掌の他，学校評議会，ＰＴＡ，同窓会との連携を強化し，生徒の実態や，情報を共有し，組織的な指導体制の構築を図る。	B		

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価		次年度(学期)への主な課題
進路	【進学目標】 1 各年次に応じた適切な進路指導の充実を図る。 2 進学情報の収集と分析・適切な資料の提供と利用を図る。 （含大学入学共通テスト[新テスト]） 3 各生徒の進路希望に合った進路指導を実践する。 4 小論文指導を計画的かつ継続的に進める。 5 総合型選抜及び学校推薦型選抜の対策を進める。	(1)学習研究部・各年次・各教科との連携による進路指導の充実を図る。	A	A	・推薦入試の際に志望理由書の内容に高校生活で行った探究活動について記載を求められることがあった。総合的な学習等の充実を図らなければならないと考える。
		(2)オンラインサービス等を利用したデータの提供・分析等にあたり，各年次の指導にあった適切な資料の提供を図る。	A		
		(3)大学教員による模擬授業・大学見学会・HR講演会・進学懇談会等の実施による生徒の進学意識の向上を図る。	B		
		(4)小論文特別講座，面接講座を実施する。	A		
		(5)総合型選抜及び学校推薦型選抜の対策に努める。	A		
		(6)情報発信を密にする。	A		
		(7)進路相談・面接指導の充実を図る。	A		
		(8)大学入学共通テスト[新テスト]の情報収集及び研究に努める。	B		
	【就職目標】 生徒の能力・適性に応じた就職指導の徹底を図る。	(1)適切な職業相談と就職の斡旋に努める。	A		
		(2)資料の収集・整理・事業所についての調査研究とその活用に努める。	A		
		(3)３年次において就職希望者に対する会社見学等の適切な指導を図る。	A		
		(4)各種模試・面接指導を実施し生徒の希望の実現を図る。	A		
生徒指導	1 基本的な生活習慣の確立を図る。			B	・学校生活や人間関係はもちろんのこと，コロナ禍の影響で不安やストレスを今まで以上に抱えている生徒が増え続けている。今後のもできる限りの支援や教育相談を継続していきたい。 ・交通安全対策（立哨指導・注意喚起・自転車保険の全員加入等）を継続的に行っていきたい。 ・上履きの検討。 ・附属中とのさらなる連携。
	（1)盗難・遅刻防止	(1)自転車・バイクの鍵の管理を徹底させる。	B		
		(2)教室の施錠の徹底　貴重品袋の活用を続けていく。	B		
		(3)遅刻や昼休みの外出などの防止策として生徒指導部・年次でも立哨指導等を続けるが生徒の自覚をＨＲ集会等を通して図っていく。	B		
	（2)服装・頭髪等	(4)服装・頭髪の指導については全職員の共通理解のもと、年次集会や考査中に行い、学年担当や担任、副担任のチェックを通して事後指導等の段階的な指導を行っていく。	A		
		(5) 立哨指導のやり方について共通理解を図り全職員で徹底して行う。	B		
	（3)特別指導の防止と迅速な対応	(6)指導方針に一貫性をもたせ，職員の一致協力による指導を行う。	B		
	（4)携帯電話の使用についての指導	(7)フィルターを掛けさせる等の指導をし，マナーを守らせ適切な使用を徹底させる。	B		
		(8)授業中は使用させないよう指導する。	A		
		(9)SNSとの付き合い方には十分注意させ，トラブルに巻き込まれないように喚起する。	B		
	2 交通安全指導の強化に心掛ける。				
	（1)生徒指導員との連携	(10)必要に応じPTA生徒指導委員の参加・指導を依頼する。	B		
	（2)立哨指導	(11)定期的に全職員での立哨指導を行う。	A		
	（3)自転車・バイクの定期点検保険加入の徹底	(12)４月当初に自転車・バイクの点検を行い保険加入の確認をする。	B		
	（4)校内での自転車・バイクについての駐輪指導	(13)指定された駐輪場所に駐輪されているかどうか確認指導をする。	C		
	3 生徒の自発的活動を促進する。				
	（1)生活委員会の活性化	(14)全クラスの生活委員を毎月末に集めその月の反省・来月の目標を全生徒に通達できるようにする。	A		
		(15)交通安全・校則等についてＨＲでも取り上げ話し合いを進める。	B		
	4 教育相談の充実を図る。				
	（1） 教育相談の充実	(16)教育相談における，担任・年次との連携を図り生徒の精神面のサポートをする。	A		
		(17)学校不適応や友人関係の悩み等，スクールカウンセラーとの連携を図り早期解決に導く。	A		
		(18)担任・保護者等に対する支援，相談，情報提供を行う。	A		

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価		次年度(学期)への主な課題
特別活動	1 生き生きとした高校生活の確立を図る。	(1)ＨＲや学校行事を通して生徒の主体的行動を支援し，自主性を育てる機会を作る。	A	A	・中高一貫校として委員会組織の見直しと活性化。 ・HRでのキャリアパスポート活用の研究。
	2 生徒会活動の活性化に努める。	(2)生徒会が学校行事の企画運営をし，地域との連携を図りながら，生徒が主体となる行事になるよう支援する	A		
	3 ホームルーム活動の活性化と内容の充実を図る。	(3)自らの学習状況を振り返り，将来を見通しながら自主的・自律的な活動が充実して行えるように，ＨＲ年間計画やキャリア・パスポートを活用し，系統的に支援する。	B		
	4 部活動の充実と発展に努める。	(4)部活動の活性化を促進するとともに，倫理と規律に基づいた運営が出来るよう支援する。	A		
	5 中高一貫教育校として活動の充実	(5)附属中学と各種行事や生徒会活動を通じて連携を図り、中高一貫教育校として一体感のある雰囲気作りをする。	A		
図書	1 図書館資料の充実を図る。	(1)図書の収集方針に基づき，定期的な図書選定を実施する。	B	B	・教科との連携（学習活動に沿った図書館利用の促進）。 ・生徒の必要とする図書の現実的把握と対処（リクエスト）。 ・委員会活動の活性化。 ・読書習慣をつけ，来館者を増やすための方策。
		(2)蔵書整理の基準に則り，生徒の利用を促進する資料の整理・分類を継続する。	B		
		(3)中学生むけや探究の時間の利用に役立つ選書の工夫をする。	B		
	2 情報センターとしての図書館の利用促進に努める	(4)書架の配架の工夫等により，様々な利用形態に対応できる図書館の環境整備に努める。	B		
		(5)各教科・各分掌との連携により，生徒の現状に沿った図書の利用促進の工夫に努める。	B		
	3 図書委員会の活動の充実を図る。	(6)図書委員の主体的な活動を促進する。	B		
		(7)「図書館便り」「図書館報」等の，図書館広報活動を向上させる。	B		
保健厚生	1 生徒・教職員の心身の健康の増進	(1)生徒が主体的に体調管理ができる力を育てる。保健室だよりを発行する。	A	A	・新型コロナ感染症対策として，新しい生活様式の実践と，生徒の主体的な基本的感染防止対策の定着。 ・新しい生活様式に沿った各種行事・講演会等の在り方（方法）の工夫。 ・国や県の感染状況や通知等を把握し学校として適切に対策を講じる。
		(2)生徒の健康安全を重視し学習環境の安全点検を行う。事故防止及び保健室の効果的な運営に努める。	A		
		(3)性教育等，各種健康教育を実施し健全な健康観を作る。	B		
	2 学習環境の整備	(4)清掃用具の管理に努め，全職員・全生徒による清掃を徹底し，衛生環境の改善を図る。	A		
		(5)冷暖房器具の安全管理及び生徒の健康管理に努める。	B		
	3 防災安全管理の徹底	(6)綿密な計画を立て生徒が安全な行動を取れるように指導する。	A		
	（1）防火避難訓練の充実	(7)生徒代表による実施訓練を行う。	—		
	（2）地震及び原子力災害避難訓練の実施	(8)避難訓練の方法を工夫し適切に実施する。	A		
情報	1 校内LANの構築とその利用を図ると共にセキュリティーの確保に務める。	(1)授業・HR単位でのコンピュータ室利用の支援を行う。	B	B	・校務用サーバーの導入。 ・GIGAスクールの対応。
	2 成績処理の効率化を図ると共に適切な資料の提供を行う。	(2)一斉試験等の処理を行い，処理内容の把握とその研究・開発に努める。	B		
	3 ホームページの更新及び内容の充実を図り活気ある本校の現状を発信する。	(3)併設型中学校の開校に伴い各部署との連絡を取り定期的なホームページの更新内容の充実に努める。	B		
	4 支援システムのスムーズな運用を図る。	(4)システムについて研究し，内容の把握に務め，適切な処理を行う。	B		
	5 校内研修会等を通して本校職員・生徒のコンピュータ利用に関する知識・技術 の支援を行う。	(5)本校職員対象の校内研修会の企画・運営に当たる。	B		

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価		次年度(学期)への主な課題
第1年次	1 基本的生活習慣の確立を図る。 （1）学校生活社会生活における規律の遵守 （2）時間の遵守と挨拶の励行 （3）健康の管理と維持	（1）生徒面談，教育相談，立哨指導，学年集会，校内巡視等をとおして適切な指導に努める。	B	B	・探究活動については，発展的な取り組みに向けて指導研究を継続する。 ・自主的な学習態度の育成を第一目標とする。 ・多様化する生徒に対し学年団が問題意識を共有する。
		（2）高校生らしい身だしなみや規範意識の高揚を道徳やＬＨＲ等で徹底する。また，健康の維持と増進を図る。	B		
		（3）普段の生活の中で，時間の遵守と挨拶の励行に努める。また教室内の整理整頓に努めたり，清掃活動を通して，自ら進んで生活環境を整えるよう指導する。	B		
	2 主体的・自主的学習態度の育成と基礎学力の向上を図る。 （1）家庭学習の習慣化と進路を見据えた学習の徹底 （2）課題探究を通した自己分析と具体的進路目標の設定 （3）新入試制度に向けての研修 （4）平常課外や土曜課外などへの積極的参加と学力の増進	（4）少人数学習，ＴＴ授業等の展開，及び予習・授業・復習の学習形態を定着させ，また定期的に課題を出すことにより基礎学力の充実に努める。	B		
		（5）総合的な探究活動の取り組みとして，自己の在り方生き方を考えながら，よりよく課題を発見し解決していくための資質・能力の育成を図る。	A		
		（6）家庭学習時間調査の結果を分析し弱点を把握して，家庭学習の習慣化を図る。	B		
		（7）学習の計画と継続を徹底する。また，平常課外や，土曜課外を利用して発展的な学習を強化する。	B		
	3 進路目標の早期決定を図る。 （1）早期の自己適性の確認 （2）新入試制度および大学入学共通テスト［新テスト］への対応	（8）進路講演会，進路ガイダンス，履修ガイダンスを充実させ，自己を知り，各自の進路の目標を設定させる。	C		
		（9）外部模試，課外，自学集中ゼミを実施し学力の向上を図る。	B		
		(10)進路意識の啓発のため，進路に関する生徒面談や学年集会を開催し，情報提供と意識の明確化を図る。	B		
	4 高校生活の充実を図る。 （1）特別活動への積極的な参加 （2）地域社会への貢献	(11)部活動及び学校行事への積極的な参加を促し，一人一役の任務を担うことで集団への寄与や，一体感を体験させ他者と共感する態度を養う。	C		
第2年次	1 基本的生活習慣の確立を図る （1）学校生活　社会生活における規律の遵守 （2）時間の遵守と挨拶の励行	（1）服装・頭髪等について生徒指導部と連携して，各ホームルーム･年次集会などで継続的に指導を行う。	A	B	・進路実現に向けた，実効性のある学習指導，進路指導の体制作り。
		（2）規則正しい生活を心掛け，健康の維持管理に努め，欠席・遅刻・早退を減らす。	A		
	2 主体的・自主的学習態度の育成と基礎学力の向上を図る （1）家庭学習の習慣化と進路を見据えた学習の徹底 （2）自己分析と具体的進路目標の設定 （3）新入試制度に向けての研修と情報の提供 （4）平常課外や土曜課外などへの積極的参加と学力の増進	（3）学習記録表等を利用して，家庭学習の定着を図り，生徒の進路希望に応じた柔軟な授業の展開によって，学力の伸長を図る。	B		
		（4）本校生徒の現状を踏まえて，生徒自身が「早期に主体的に進路を選択し決定できる」ための進路指導の充実を図る。	B		
		（5）総合的な学習の時間や進路ガイダンス・進路講演会・大学見学会などを通して進路意識の高揚を図る。	B		
		（6）大学入試共通テスト（新テスト）に対して適切に対応するため進路指導部や学習研究部と連携し，平常課外や土曜課外及び学習支援ツールの有効活用を図る。	B		
	3 高校生活の充実を図る （1）特別活動への積極的な参加 （2）地域社会への貢献	（7）部活動や修学旅行，クラスマッチ等の学校行事や地域ボランティア活動を通し，個性の伸長および連帯意識の高揚を図るとともに地域社会への貢献を推進する。	B		
		（8）生徒の内面に訴える指導体制を図るとともに保護者・地域との相互のコミュニケーションづくりを推進する。	B		

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価		次年度(学期)への主な課題
第3年次	1 基本的生活習慣の確立 （1）学校生活・社会生活における規律の遵守 （2）時間の遵守と健康管理の維持	（1）生徒指導部と連携し，服装・頭髪等について，校舎内外での指導や年次での指導をおこない規範意識を高める。また，交通安全指導を徹底して，事故防止に努める。	A	B	・先生方の連携（話し合い）がもっとあってもよかった。 ・後半，土曜課外（授業）の欠席が目立った。推薦合格者の指導が徹底しなかった。 ・総合の時間の内容の充実。 ・調査書（特に「備考」欄）の記入の仕方を組織的に検討する。 ・入学する生徒の変化（基礎学力・意欲・意識・社会の風潮等）に対応した学習指導，進路指導，生活指導，･･･部活指導などまで検討した方がよい。
		（2）規則正しい生活を心がけ健康管理に努め，欠席・遅刻・早退を減らし，学習に集中する生活習慣を確立する。	B		
	2 主体的・自主的学習態度の育成と，生徒ひとり一人の進路の実現をはかる （1）主体的な学習態度を確立させ，進路を見据えた学習指導の徹底 （2）自己分析と具体的進路目標の設定 （3）平常課外や土曜課外などへの積極的参加と学力の増進	（3）本校生徒の現状を踏まえて，生徒自身が早期に主体的に進路を選択し，目標に向かって努力する体制をつくる。	A		
		（4）進路指導部や学習指導部と連携を図り，生徒・保護者に進路情報を提供する。また，個別面談を密にして，自ら考える姿勢を育て，学習方法・学習時間等を適切にアドバイスして進路実現を支援する。	B		
		（5）大学入学共通テストをはじめとする新入試制度について進路指導部と連携して研修を深め，生徒ひとり一人の進路実現に寄与する。	B		
		（6）積極的・主体的に課外やスタディサプリ動画講座の受講を促し，学力の増進を図る。また，生徒の希望と適性に合った志望校への進路実現を支援する。	B		
		（7）年次や教科の枠をこえ，多くの教員がそれぞれの専門性や特性を，進路指導に実践できる体制をつくる。	B		
	3 高校生活の充実 （1）特別活動への積極的な参加 （2）地域社会への貢献	（8）最高年次生としての責任を自覚させ，部活動や生徒会などの課外活動へ積極的に参加し，相手を尊重し思いやる気持ちや連携意識の高揚に努める。	B		
		（9）広い視野に立ち，地域社会から愛され，地域社会に貢献する人材を育成する。	B		

評価の仕方

A：大変よくできた（達成度 100～80%）

B：よくできた（達成度 80～60%）

C：普通（達成度 60～40%）

D：あまりできなかった（達成度 40～20%）

E：全くできなかった（達成度 20～０%）